

大阪母子保健研究ベースラインデータの結果 社会経済的要因と食事摂取パターンとの関連

背景：欧米のたくさんの疫学研究で、社会経済的に地位の高い人ほど、質の高い食事をしている事が示されています。西洋以外では、このような研究はありません。今回、日本人の妊婦において、社会経済的状況と食事との関連を調べました。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査に参加した 1002 名の妊婦さんを対象としました。社会経済的状況は、教育歴、職業及び家計の年収で評価しました。食事の評価は、食事歴法質問調査票を使用しました。年齢、ベースライン調査時妊娠週、子数、能動喫煙状況、家族構成、過去 1 ヶ月の食事変容、身体活動及び夫の教育歴を交絡因子として補正しました。

結果：教育歴はタンパク質、n-3 系不飽和脂肪酸、食物繊維、コレステロール、カリウム、カルシウム、マグネシウム、鉄、ビタミン A、ビタミン D、ビタミン E、ビタミン C、葉酸摂取と正の関連を認めました。逆に、教育歴は炭水化物摂取と負の関連を認めました。食品群との関連に関しては、教育歴は野菜、魚介類、いも類の摂取と正の関連を認め、米の摂取とは負の関連を認めました。教育歴はパン、麺類、菓子類、砂糖類、脂肪、豆類、肉類、卵、乳製品、果物の摂取とは関連がありませんでした。職業について、主婦は働いている女性よりも、食物繊維、マグネシウム、鉄、ビタミン A、葉酸、豆類をたくさん食べていました。家計の年収はいかなる食品、栄養素とも関連がありませんでした。

結論：日本の妊婦を対象とした今回の研究では、職業、家計の年収ではなく、教育歴と好ましい食事摂取パターンとの間に正の関連が認められました。

出典： Murakami K, Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Ohya Y, Hirota Y, The Osaka Maternal and Child Health Study Group. Education, but not occupation or household income, is positively related to favorable dietary intake patterns in pregnant Japanese women: the Osaka Maternal and Child Health Study. *Nutr Res.* 2009; 29: 164-172.